

地元で、東京で、世界で。輝ける街

働く

CASE STUDY 09



CASE STUDY 08



宇都宮の「食」を世界中の人に知ってもらいたい!



1.2 宇都宮市の「農人たち」と提携し、おいしい野菜を「作る」ことから手がけ、作った野菜は各店舗で提供される(写真は「宮ノ橋 上ル下ル」) 3 JR宇都宮駅前に店を構える「Source」にて。4 NY・マンハッタンウエストビレッジに構えた「Ramen-Ya」。5.6 NYで開催した「JAPAN TOCHIGI WEEK」の様子。宇都宮の魅力の世界に発信するため、さまざまな取り組みを続けている。

宇都宮の「食」の実力を世界に伝えたい  
「世界に発信できる魅力にあふれた街です」



飲食店経営  
小林俊仁さん

GOOD PLACE!! UTSUNOMIYA

都心や国際空港へのアクセスも良く、世界を見据えた活動に最適。外から見た宇都宮の魅力は「食」。農産物のレベルが高い。

「だ」 皆さんの可能性を秘めた街、宇都宮。自分たちの動機を、その可能性は世界をつなぐ発信源になるでしょう。すでに何かを確信しているかのように目を輝かせ、自信に満ちた表情でそう語る小林さん。2001年に隠れ家的飲食店「温・温」をオープン。以後、市内に2店舗、NYに飲食店を開業する

など、世界を視野に入れた幅広い事業を展開してきた。 地元が好きでたまらないという小林さんがこの地を拠点に決めたのは、宇都宮の農産物のおいしさが何より大きかった。「食」にこだわり、一切の妥協を許さない。安心安全な食材の確保が難しい現状でも、小林さんは自らの足で確かな食材を求め世界を旅してきた。「大自然が育む農産物の美味しさは、その土地にしかない魅力そのもの。私たちの街・宇都宮の、食。は素晴らしい財産です」 空港や都心へのアクセスが便利な宇都宮は、小林さんの活動をさらに広げてくれる。さらに、その距離感を縮めてくれるツールは地元産物の数々だ。2015年3月、NYの店舗で、地元4社の酒造と益子焼をPRする「JAPAN TOCHIGI WEEK」を開催。地酒を

味わい、益子焼の器で料理を提供するなど、宇都宮を中心に地元の魅力を伝えることを目的としたこのイベントは連日大盛況のうちに幕を閉じた。「栃木県や宇都宮市は、世界的にも日本でもはやけた感じがするんです。でもこの企画が成功したことが突破口になった。私がNYに出店したのは世界への発信力があるから。私が暮らすこの街の素晴らしさを、NYから世界に向けて伝えていきたいですね」 最近では「農人たち(11ページ)」と提携し、オーガニック野菜の生産から、加工品の開発・販売などを行う。また新たな取り組みとして食のセレクトショップ・プライベートブランド「ORGANIC(オルガニス)」を立ち上げる。食を通じて、宇都宮市民全員が盛り上げられる街づくりを目指して。

恵まれた環境で農業ができる幸せ  
「自然と人の営みが  
見事に融合した街です」



農業経営  
宮本暢常さん

CHECK!!

農人たち

土にこだわり、農業や化学肥料を使わず「記憶のこのころ」美味しい野菜作りをコンセプトに農業ネットワークを展開。www.noujintachi.jp/



穏やかな気候で、農業をやるのにぴったりな街です



利用した制度

新規就農者支援者制度

関係機関とともに就農の検討段階から就農直後、さらに経営発展期まで農業経営の段階に応じて様々な支援策を用意している。 宇都宮市経済部 農業振興課 担い手支援グループ 028-632-2453 028-639-0618



1.2 アスパラガスやにんにくなど宮本さんの畑では季節ごとに多彩な野菜が作られている。3 生活と自然が見事に融合した里山。4 県内外から様々な人が訪れる農業体験の1コマ。農業体験希望者の受け入れもっており、土や自然に触れることでリフレッシュして帰っていく。5 雑草を食べしてくれるヤギは農業不使用の畑の強い味方。

「日」 本原風景、里山が広がる宇都宮市叶谷町。農業生産ネットワーク団体「農人たち」を主宰する宮本さんは今日も畑で汗を流す。 東京のIT会社で10年以上働いていたが、データという手に触れられないものを扱っている不安を感じ続けていた。40歳が目の前に迫り、猛烈なスピードで仕事をし続けていた中、東日本大震災が起こった。全てが止まった。これを機に「形のあるものを仕事にしたい」という思いが決定的となり、新たな仕事をするために宇都宮に帰郷。「食に関わる仕事に携わりたい」というイメージはありましたが、当初は農業という選択肢はありませんでした。転機はたまたま親戚のアスパラガス農家から「畑を手伝ってほしい」と声をかけられたことだった。「そのときに

食べたアスパラガスが東京で食べたどんな野菜よりも桁違いにおいしかった。育てた野菜を食べる。これだ。と思いました」 最初は手探りだったが、親戚の強力なバックアップと地域の人たちの応援で宇都宮市や栃木県の新規就農者支援などを得て経営の基盤も作れた。「これから農業を始めたい人はまず宇都宮市の窓口にご相談ください」と思います。 サポート体制をしっかりと案内してくれますよ」 「農人たち」という団体を立ち上げ「農」を取り巻く「人たち」のネットワークの発展に尽力する。「生で食べられる美味しい野菜、をコンセプトに有機肥料100%、農業を使わず土作りにこだわった野菜作りをしています。美味しい野菜を通じて繋がる様々な業種の。人たち」とネットワークを構築

GOOD PLACE!! UTSUNOMIYA

環境に恵まれていて農業に最適な場所。仕事をしつつも余暇的な要素もある。お金で買えない「価値」のある街です。

今では農業体験をするために様々な職種、年齢の人が県内外から日帰りで行ける。「毎週日曜日は体験農業をみんな楽しんでいきます。ほんの少しでも感動や気づきを持ち帰ってもらえたら嬉しいです」と語ってくれた。